

第54回全国学童保育研究集会 in 京都 感想

直方地域

○『全国研は今回初めての参加でした。子どもがお世話になっている学童の先生から、是非1度参加してみてください！という熱いお誘いがきっかけで、どんな雰囲気なんだろうと新鮮な気持ちで参加させて頂きました。

参加してみて1番に感じた事が、学童関係者の皆様の学童保育に対する熱（想い）でした。全国の学童関係者の方々、それぞれが愛情を持って子ども達と関わって頂けている事がとても伝わって来る時間になりました。

私の子どもがお世話になっている学童の先生も、日々、熱意を持って子どもと関わってくださいます。全国にもそんな先生が多くいるんだな。と感じると同時に、お願いしている親として、本当に有り難く感じました。

参加させて頂き、とても貴重な時間を過ごす事が出来ました。ありがとうございました。

（保護者）

○今回、初めての参加でした。

まず、歓迎行事では、けん玉や一輪車、ダンスにと、子どもたちの真剣なまなざしに、「がんばれ！がんばれ！」と心の中で応援しながら胸が熱くなりました。



「働きながらの子育て」についての池添先生の記念講演では、自分で考え、選び、行動することで生まれる自己肯定感の大切さを学びました。

2日目の分科会では、中村先生による「性について考える」という講座で「命の大切さ」や「さまざまな性の在り方」について考え、子どもの本音と向きあい、育ちを支えていけるよう、知識を高めていきたいと感じました。

たくさんの学びと経験を得ることができ、とても充実した研究集会でした。

（支援員）

○第54回全国学童保育研究集会が京都で開催され、私は今年で4回目の参加でした。子どもたちの歓迎行事でスタート。

被災地7県からの報告。全体会は、池添素先生のユーモアを交えながらの「働きながら」についてのお話。

分科会では中西新太郎先生の「今日の子どもの問題を考える」というテーマで、今の子どもたちが置かれている状況、SNSを通した子どもたちの居場所、貧困等、どれも中身の濃いものでした。その中で、やはり学童保育の果たす役割は大きいことを感じました。

私にとって全国研は、気持ちが前向きになれる場所です。

日々、大変なことがたくさんありますが、ここで学んだことを保育に生かしながら私らしく保育に向き合っていきたいと思います。

（支援員）

○初めて全国研に参加しました。先輩指導員から聞いてはいましたが、実際目の当たりにすると、そのスケールの大きさ、会場の皆さんの熱い思いに圧倒されました。そして、この会を舞台裏で支えてくださった京都の子どもたち、指導員、保護者の皆様のご尽力に心から感謝申し上げます。

「子どもたちのために」という思いを同じくする仲間がこんなにも大勢いるんだと気持ちを引き締め、今回学んだ様々なことを学童の現場に活かしていきたいと思います。

（支援員）



福岡地域

○今年は初参加の保護者が3名いってとても嬉しかったです。

池添さんのお話は前に聞いたことありましたが、いつからでも子育てはやりなおせる！というのがやはり印象に残りました。

子どもの気持ちを知ることがやり直しかなと思います。

そして、外で頑張っているからエネルギーを使う、携帯と一緒に使えば充電が必要、どこで充電するのか、家ではだらだらして充電してるんです、大人も子どもも。十分に充電できるように家で過ごしたいなと思いました。

(保護者)

○初めて全国学童研究集会に参加させていただきました。会場に入るやいなや、子どもたちの一輪車に感激し、自然と笑顔が溢れていました。

記念講演のお話はとても興味深い内容で、笑いもあり、納得する事も多く、あっという間に時間が過ぎていました。私が悩んでいた子育てに光が見えたように思います。

分科会では、子どもの権利条約について学びました。内容は、とてもわかりやすく、自然と言葉が耳に入ってきました。子どもたちが置かれている現状。子どもの権利について。私ができる事。楽しく多くを学んだ2日間でした。

私が学んだ事をまた他の保護者と共有しながら、これからの子育てに活かしていけたらと思います。

(保護者)

○今年初めて参加しました。

2日間参加した中で印象に残る話が沢山ありましたが、特に池添先生の「子育てはいつでもやり直せる。なぜなら子どもは親の失敗を許してくれる優しい生き物だから」という言葉に涙したとともに明日からまた子育て頑張ろうと活力を頂きました。また何より一人ひとりの子どもに全力で向き合う指導員の方が全国に沢山いる事、その熱量を間近で感じられた事が保護者として今回1番嬉しかったです。

(保護者)

○全国の学童指導員、保護者、行政は子どもたちへの力の入れ方が違って驚いた。

子どもたちは、安心出来る居場所で信頼できる指導員とともに、のびのびとやりたい遊びを、やりたい仲間と一緒にっていて、とても楽しそうな笑顔があった。その居場所を指導員、保護者、が一体となって護ろうとし、署名活動を行ったなどの話を聞いて、「子どもを中心に」に大人たちが関わっている姿はとても勇気を与えてくれるものだった。私ももっと多くを学び、子ども観を磨いて、

子どもが安心して過ごせる居場所を作っていこうと改めて思います。

(支援員)



宗像地域・遠賀地域

○今回初めて全国学童保育研究集会に参加しました。

歓迎行事では子どもたちの一生懸命に発表してくれた姿を見て、子どもたちの力のすばらしさを改めて感じました。

特別報告・記念講演、そして二日目の分科会を通して全国の支援員の方々と交流し、課題を共感できました。

分科会では「待つ」ことの大事さを感じました。しかし同時に、とても難しいことでもあります。今回学んだことを学童に持ち帰り、支援員と共有したいと思います。

(支援員)

○全国研が「京都」ということもあり、うかれぎみで参加していたのですが、会場の大きさに驚き、歓迎行事での子ども達の一生懸命な姿に胸が熱くなり、浮かれ気味の自分を反省させられました。

全体会では、池添素先生の「子育ては、いつからでもやり直せます！」

という言葉や「甘えることで子どもは育つ！たっぷり甘えさせましょう」という子育ての常識を覆すようなお話しに引き込まれ感動と元気をいただきました。

分科会では、「発達障害のある場合の子どもの理解と支援」に参加しました。支援員、保育士、教員、養護施設の職員、保護者などいろんな職種の方が参加されていました。日々おこるトラブルや困りごとを、子どもと向き合い、支援や解決の糸口を見出す数々の事例を聴き、その真摯で熱意ある取り組み方に感銘を受けました。全国研で学んだこれらの事を、学童での支援につなげていけたらと思っています。

(支援員)

第55回全国学童保育研究集会は

2020年10月10日(土)・11日(日)山形で!!

お知らせ



第38回福岡県学童保育研究集会予告

「子ども時間を生きる」「子どもを信じる」

～共に歩むあなたが大切にしたいこと～

◆とき 2020年2月23日

◆ところ 宗像ユリックス・メイトム宗像

記念講演

講師：中西新太郎 氏 (関東学院大学教授、横浜市立大学名誉教授)

□テーマ

「ひとりでがんばらなくてもいいんだよ ～子どもが生き生き育つ社会とは」

分科会

12分科会

- 1、国や自治体施策と学童保育の役割
- 2、学童保育と保護者会
- 3、運営主体を考える～民間企業参入と学童保育運営
- 4、支援員の倫理綱領を学ぶ
- 5、障がいがあってもなくても、共に育ち合う場所としての学童
- 6、子どもたちが健やかに育つには～遊びを感覚統合の視点から見てみよう～
- 7、子どもの権利～あらためて学び、身につけよう～
- 8、記録～日々の記録を元に、支援員集団と保育の質を高める
- 9、あそびのひろば～えがおのひろば～
- 10、子どもとメディアとのかかわり～子どもの体と心大丈夫?いま、大人ができることを考える～
- 11、子どもの荒れと生きる力
- 12、アレルギーの知識と対応の仕方

研究集会のチラシは12月上旬に出来上がります。